



NISHI



西東京市 まち・ひと・しごと 創生総合戦略



TOKYO



CITY



平成28年3月 西東京市

NISHITOKYO CITY

西東京市 まち・ひと・しごと 創生総合戦略

Contents

| | | |
|------------|------------------------|----|
| I | はじめに | 2 |
| | 総合戦略について | 2 |
| | 総合戦略の位置づけ | 2 |
| | 計画期間 | 2 |
| II | データから見る本市の特徴と課題 | 4 |
| | 特徴 | 5 |
| | 課題 | 8 |
| | 特徴と課題から見る戦略の方向性 | 11 |
| III | 戦略のめざすところ | 12 |
| | 戦略の基軸 | 12 |
| | 推進のための共通の視点 | 13 |
| | 基本目標体系 | 14 |
| IV | 基本目標 | 15 |
| V | 評価の考え方 | 24 |



わが国は、人口減少や超高齢社会の到来という、これまでに経験したことのない時代を迎えようとしています。

これらの変化は本市においても例外ではなく、これまでの知識や経験を十分に活かしながら新たな取組や手法を検討し、住みやすさを市民の皆様が実感でき、将来においても「住み続けたいまち」「住みたいまち」として選択されるよう、戦略的な市政運営を進める必要があります。

「西東京市まち・ひと・しごと総合戦略」では、こころと体の健康という保健医療の分野だけにとどまらず、社会や経済、居住や教育といった個人をとりまく生活環境なども健康水準を向上するための要素と捉え、「健康」応援都市の実現を戦略の機軸に位置づけました。

戦略的な事業展開により、第2次基本構想で掲げた基本理念である「やさしさとふれあいの西東京に暮らし、まちを楽しむ」の実現をめざし、持続可能で魅力ある都市としてありつづけるために、市民の皆様とともにまちづくりを進めてまいります。

西東京市長 **丸山 浩一**

I

はじめに FIRST

<総合戦略について>

西東京市総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、国が示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方をもとに、西東京市の実情に応じて策定するものです。

また、平成72(2060)年を推計期間として並行して策定する「西東京市人口ビジョン」における、本市の人口の現状と将来展望等を踏まえて、今後5か年(2015~2019年)の基本目標や施策の基本的方向、具体的な施策、評価指標などを設定します。

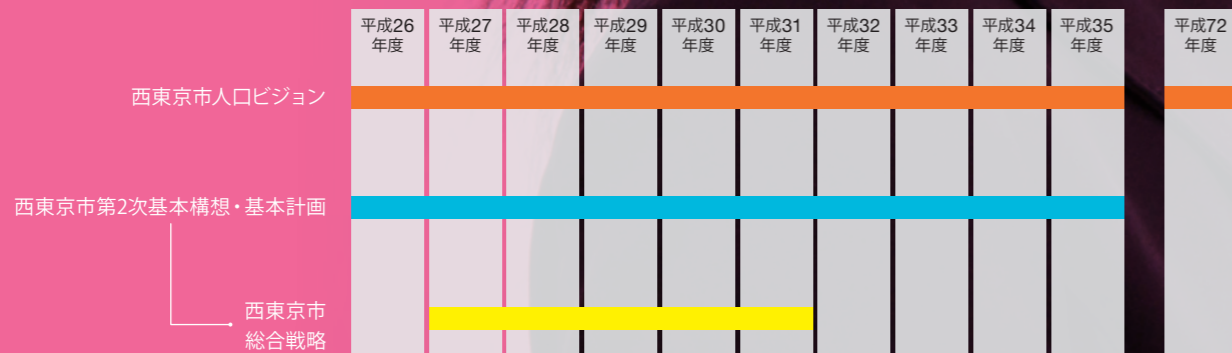
本市の人口の状況を見ると、今後も増加が予測されていますが、平成32(2020)年の約20万4千人をピークとして緩やかに減少を始め、25年後の平成52(2040)年には現在人口と近似値である約19万7千人に、45年後の平成72(2060)年には約17万5千人と予測されています。また、人口構造は着実に変化し、平成72(2060)年の75歳以上(後期高齢者)の人口は、平成27(2015)年と比べると2倍近くになります。

<総合戦略の位置づけ>

『西東京市第2次基本構想・基本計画』は、平成35(2023)年度を目標年次(計画期間)として、西東京市のめざすべき将来像を描き、まちづくりを一步前に進めるための長期計画であり、国が策定した長期ビジョン及び総合戦略と同様の方向となっています。

そのため本市の総合戦略は、国の示す4つの基本目標や本市の人口の現状と将来展望等を踏まえた上で、上位計画となる第2次総合計画における6つのまちづく

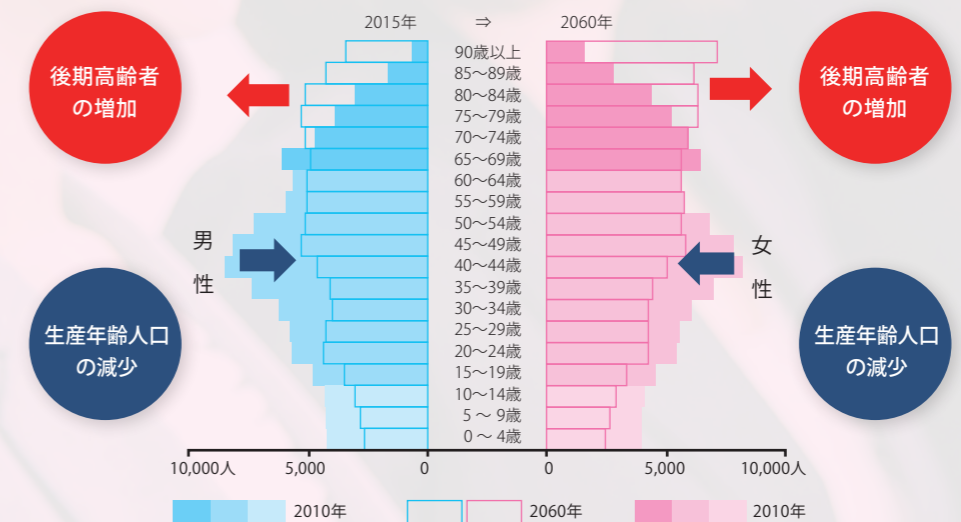
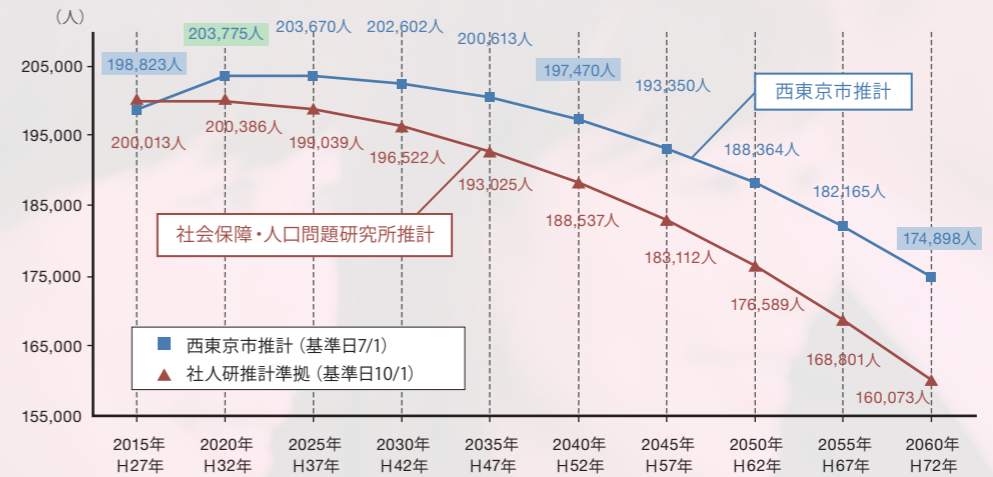
りの方向のうち、「創造性の育つまちづくり」、「笑顔で暮らすまちづくり」、「安全で快適に暮らすまちづくり」、「活力と魅力あるまちづくり」の4つの方向を加速させるための「戦略プラン(アクションプラン)」と位置付けるとともに、「西東京市人口ビジョン」で示す、平成72(2060)年を見据えた将来のまちづくりのための戦略としてとりまとめるものです。



<計画期間>

総合戦略の計画期間は、平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

本市の人口推移(将来推計)と人口ピラミッドの変化
(西東京市人口ビジョン(平成27(2015)年11月推計))



国の総合戦略と西東京市第2次基本構想・基本計画および本市の総合戦略の関係性

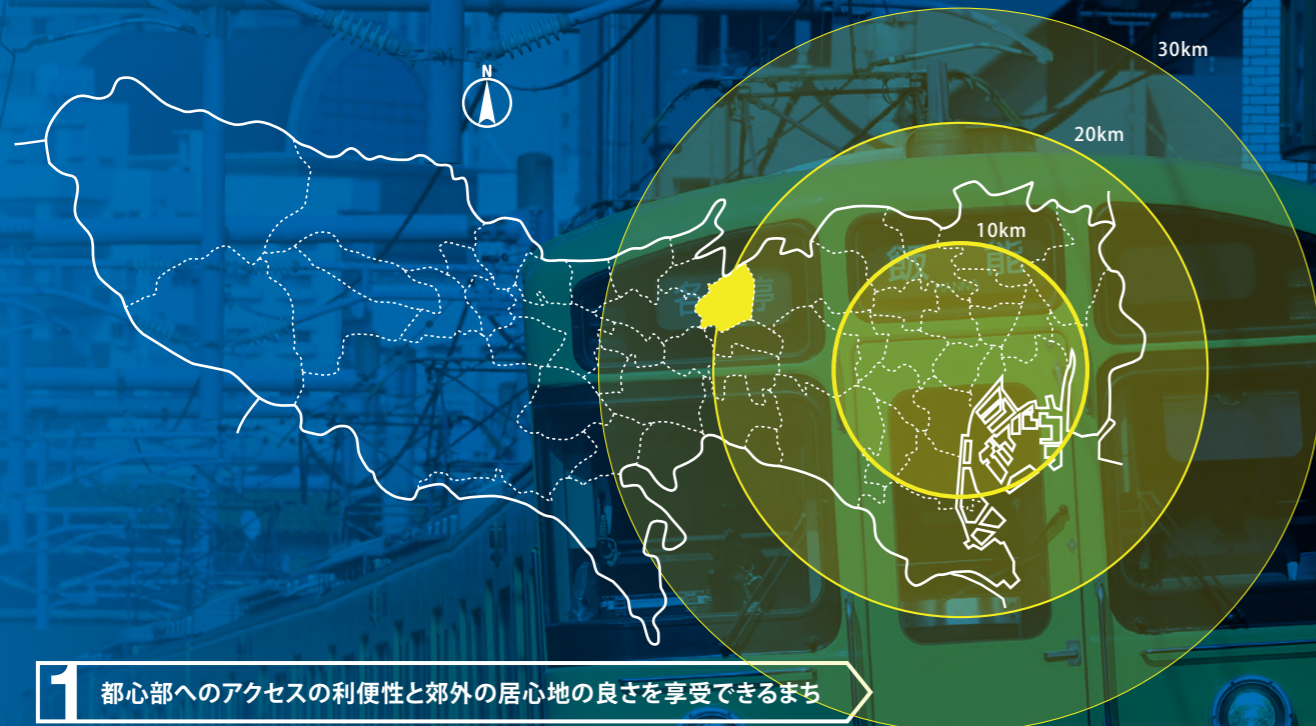
| 国の総合戦略基本目標 | 西東京市第2次基本構想・基本計画(まちづくりの方向) | 西東京市総合戦略基本目標 |
|---|---|--------------------------|
| 1 地方における安定した雇用を創出する | 活力と魅力あるまちづくり | ● 地域に根ざした産業が育ち、まちの活力を伸ばす |
| 2 地方への新しい人の流れをつくる | 創造性の育つまちづくり | ● 健康・安心・いきいきと暮らせるまちをつくる |
| 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる | 笑顔で暮らすまちづくり 安全で快適に暮らすまちづくり 活力と魅力あるまちづくり | ● まちを楽しみ、まちの良さを高める |
| 4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する | | |

II

データから見る本市の特徴と課題 CHARACTERISTICS AND CHALLENGES

総合戦略策定にあたり、本市の地域特性を分析するため、都心から20km圏の同心円上の都市（23区と隣接する5市[武蔵野市・三鷹市・調布市・狛江市・西東京市]、以下「区部隣接5市」という。）と、通勤・通学などに利用する鉄道沿線の人の流れおよび転入・転出などの傾向に着目した場合の都市（多摩北部都市広域行政圏を構成する5市[小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西

東京市]、以下「北多摩5市」という。及び西武線沿線の5区[新宿区・中野区・杉並区・豊島区・練馬区]、以下「近隣区」という。）を基本として比較しています。また、本市が実施した市民意識調査や転入・転出における意識調査、近隣市在住者・若者へのWebアンケートなどの各種調査結果等から西東京市の主な特徴と課題についてまとめています。



1 都心部へのアクセスの利便性と郊外の居心地の良さを享受できるまち

2 コンパクトでアクセス性の良いまち

3 多世代が居住するまち

4 働く市民の半分以上が都心に通勤するまち

5 農やみどりのフィールドがあるまち

6 魅力的な学習環境や市民文化が息づくまち

7 健康都市宣言のまち

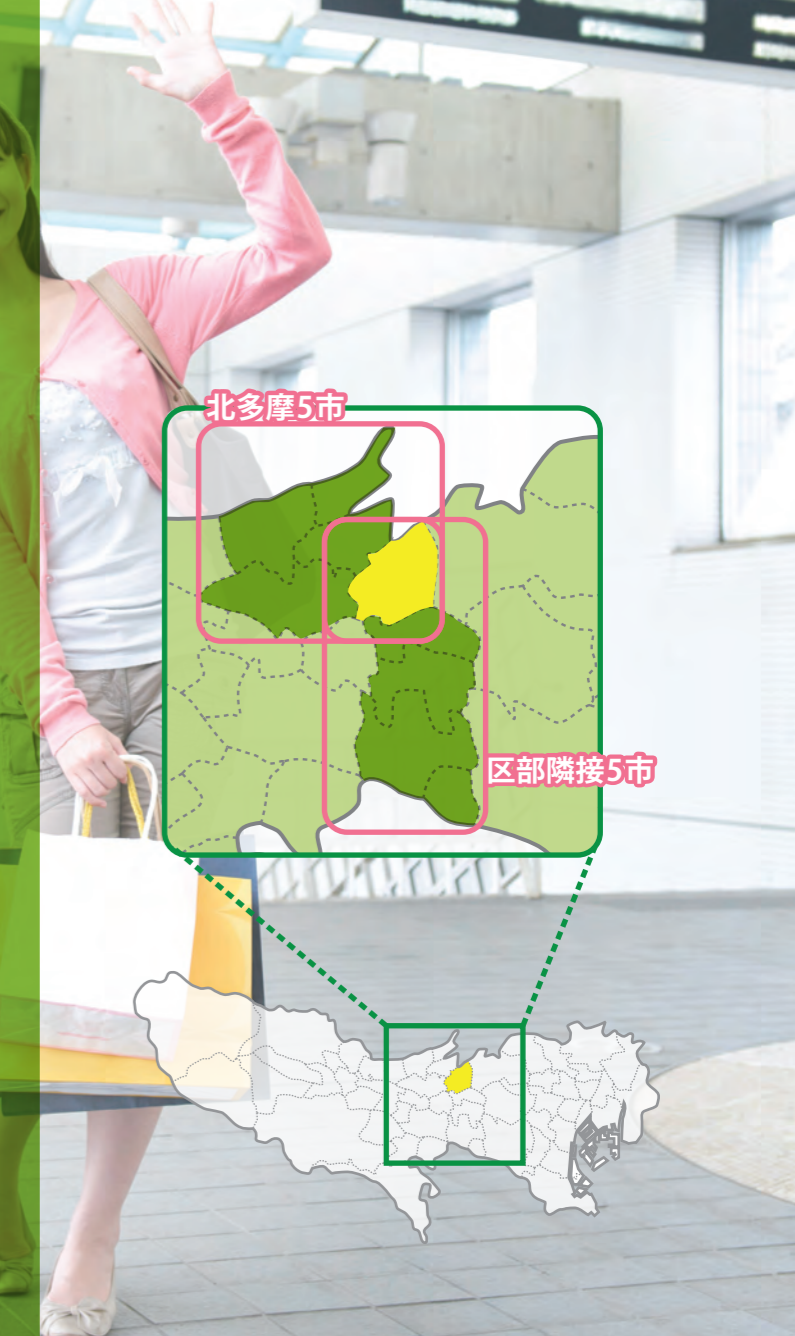
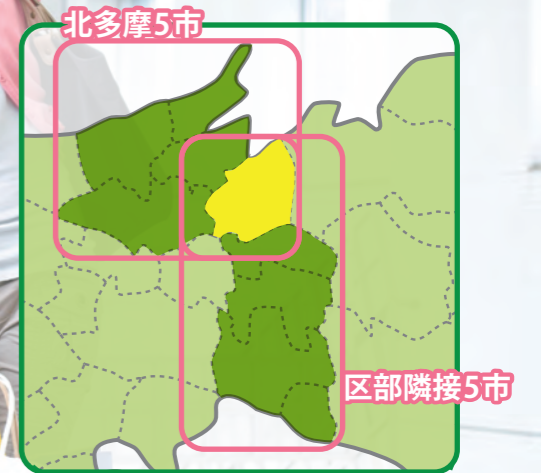
特徴

1 都心部へのアクセスの利便性と郊外の居心地の良さを享受できるまち

区部隣接5市は、都心から20km圏で区部に隣接し、副都心エリアまでの移動時間が15分～20分程度となっており、日常生活における就業や買い物などに便利で、移動のほかに商業面や教育・学習環境の面で同じような特性を有しています。

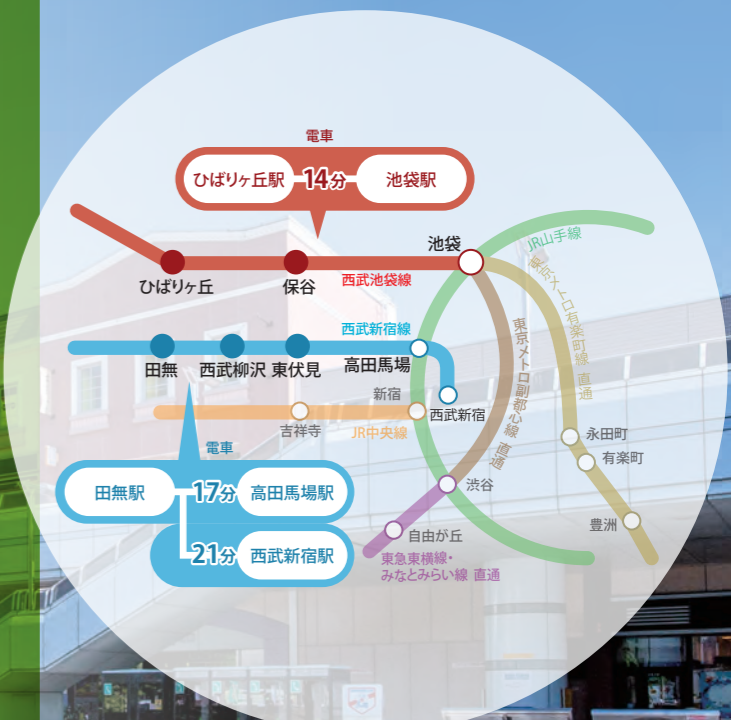
一方で、北多摩5市は、みどりや自然といった面で同じような特性を有しており、安らぎを感じることのできる良好な空間を備えています。

西東京市は、区部隣接5市と北多摩5市の両方の特性（良さ）を享受できるまちです。



2 コンパクトでアクセス性の良いまち

本市は、面積15.75km²で地形はほぼ平坦、面積は小さいながらも鉄道が2路線5駅あり、市域の約8割の地域は駅まで徒歩20分圏内となっています。また、鉄道だけではなく主要幹線道路が発達しバス便の充実や近隣へのアクセスに恵まれており「行動や活動がしやすいまち」としてのポテンシャルを有しています。



3 多世代が 居住するまち

人口規模は約20万人で将来の人口減少率も比較的緩やかに推移することが予測されています。人口密度では多摩地区で武蔵野市に次いで2位となっています。持ち家比率は61%と区部隣接5市の中では最も高く、ファミリー世帯が多く居住しています。

人口規模
約**20**万人

世帯
ファミリー
多い

人口構造
多世代が
居住

人口密度
2位
多摩26市



公示地価
平均額(住宅地)
8位
多摩26市

1住宅当たり
延べ面積
71.89㎡

持ち家比率
61%

1住宅当たり
居住室数
3.8室

4 働く市民の半分が 都心に通勤するまち

本市は区部隣接5市と同様に一定の産業集積もありますが、働いている市民の約半数は23区へ通勤しています。従事している産業では第3次産業の割合が高く、23区と同程度となっています。

事業所数
1位
北多摩5市

年間商品
販売額
2位
北多摩5市



働いている
市民
半数は
23区へ

第3次産業
従事者割合
23区
並み

5 農やみどりの フィールドがあるまち

市内には都市農業の魅力が多く潜在しており、農地がある街並みはみどりの空間として安らぎをもたらすとともに、身近にある直売所は安全・安心な食のめぐみの提供元として、重要な地域資源となっています。また、東大生態調和農学機構の研究フィールド、いこいの森公園や都立公園など大規模なみどりのフィールドがあります。

農用地面積
1位
区部隣接5市

キャベツ
生産量
1位
多摩26市

東大
生態調和農学機構
約**31**ha
研究フィールド

いこいの森公園
小金井公園都立
東伏見公園都立
遊べる

6 魅力的な学習環境や 市民文化が息づくまち

学習環境の面では学校数・児童生徒数、図書館蔵書数、社会教育事業数などは区部隣接5市と同程度となっており、館外貸出図書数や社会教育事業数などは、北多摩5市で上位となっています。

また、市内には南関東最大級の縄文時代の大集落「下野谷遺跡」や世界最多の星が投影できるプラネタリウムを持つ「多摩六都科学館」などの学習環境や、さまざまな分野で活動する団体が多数あり、学習活動や地域活動が活発に展開されています。

館外貸出
図書数
1位
北多摩5市

下野谷
遺跡
南関東最大級
縄文遺跡

NPO数
85団体

多摩六都
科学館
世界最多の
星投影

7 健康都市宣言のまち

本市は平成23(2011)年に健康都市宣言を行い、平成26(2014)年にはWHO(世界保健機関)が提唱する「健康都市連合」に加盟しました。加盟しているのは、平成26(2014)年7月現在で10か国から152都市45団体、日本からは41都市3団体で、多摩地域の自治体として初めての加盟となります。

保健、医療、福祉、教育の分野の関係団体や地域グループとの連携により、特色ある取組を進めています。

オリジナル
体操
しゃきしゃき
体操

みんなで元気
健康
応援団

市民の健康
健康
チャレンジ

健康講座
サンテ
カレッジ※

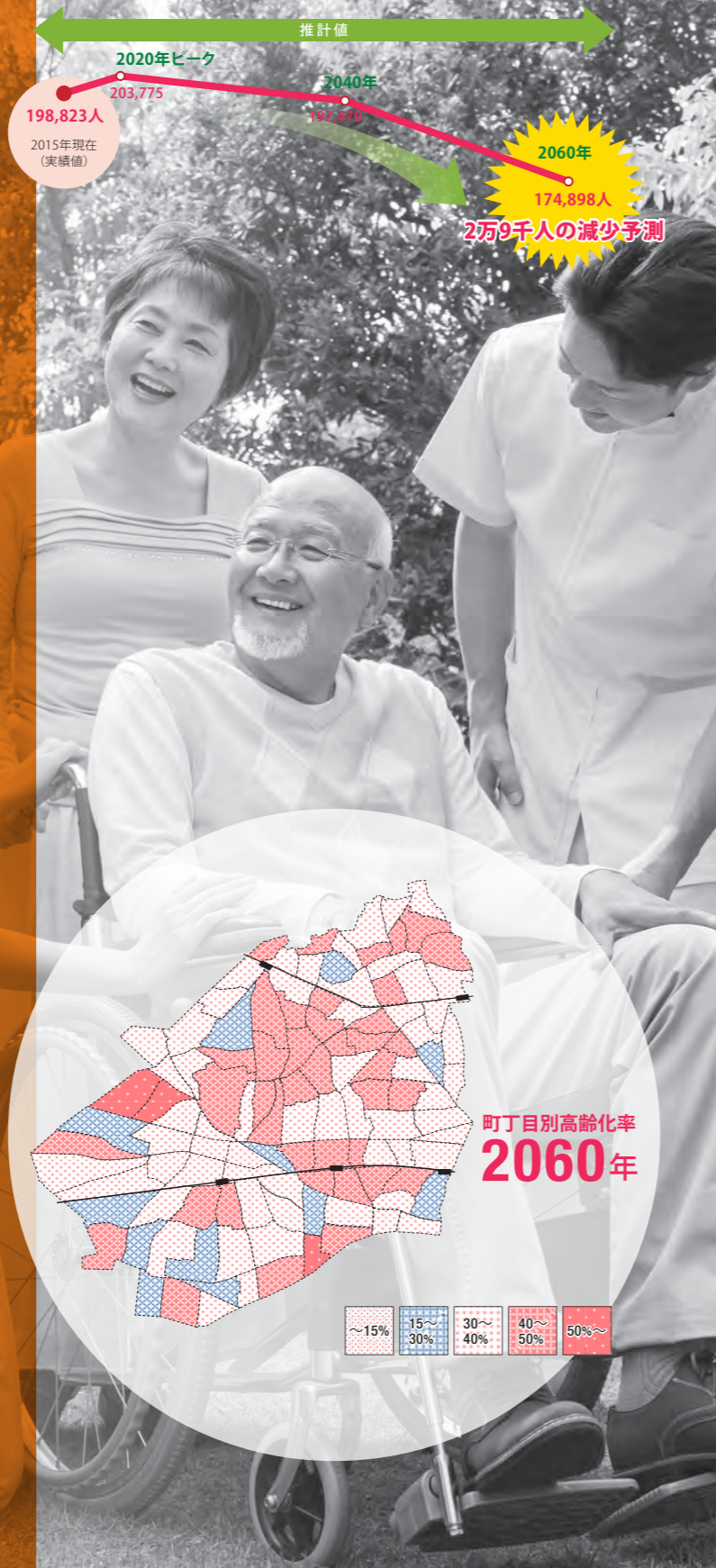
※「西東京市サンテカレッジ」は、健康に関する各種講座を実生活に即した幅広い分野から学べるよう、さまざまなコースを設定し、市民の皆様にご案内するものです。(「サンテ」とは、仏語で「健康」の意味です。)

課題

1 人口は増加した後、緩やかに減少に転じ、後期高齢者の割合は増大

本市の人口は増加していますが、将来人口は平成32(2020)年をピークとして緩やかに減少を始める予測となっています。また、後期高齢者の割合は平成27(2015)年に対して2倍近くに増大します(P9参照)。

今後の各施策における事業展開においては、中長期的な視点に立って人口減少や人口構造の変化の影響を捉えた上で対応していく必要があります。



2 少子高齢化の進展による地域環境への影響

今後予測される少子高齢化の進展は、労働供給の減少のみならず、将来における地域経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、経済の持続可能性を危うくするという認識が将来への不安に繋がっているとされています。また、地域活力の低下や地域コミュニティの衰退といった状況も予測され、活動領域の縮小による人々の心身への影響も懸念されています。多世代にわたり健康でいきいきと暮らすためには、保健医療の分野だけでなく、これまで関係性の認識が低かった他の分野においても、健康水準の向上という視点から行政が実施する施策及び事業の展開を図り、市民の健康を確保することが重要となります。

3 若い世代の結婚・出産・子育て期におけるギャップと転出超過

(出生率)

平成23(2011)年度以降の北多摩5市の合計特殊出生率を見ると、小平市、清瀬市、東久留米市の3市が上昇している中で本市はおおむね横ばいで推移しており、子供2人以上世帯の割合も北多摩5市の中では低位となっています。また、男性・女性の未婚率を全国平均と比較すると、男性は全国平均であるのに対し、女性の25~29歳は65.1%(全国:59.9%)、30~34歳は36.2%(全国:33.3%)となっており、平均と比べ高い状況が伺えます。一方で、市民意識調査からは、本市の18~39歳女性の結婚意向の割合や市民の希望出生率は、全国平均よりも高くなっており、希望と現実の間のギャップに対応するための方策が求められています。

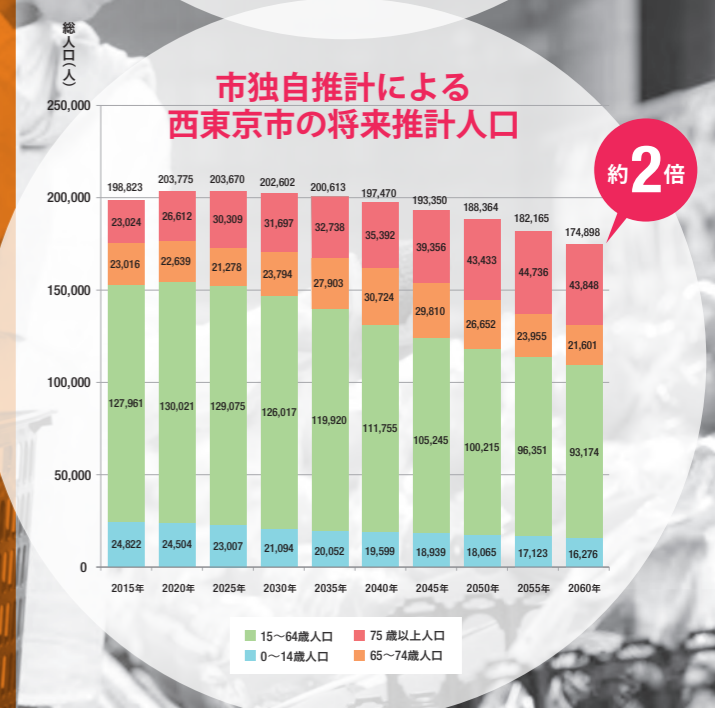
(若年層の転出超過)

本市の25~39歳の若年層については、都心(新宿区、世田谷区等)や北多摩5市(小平市、東久留米市等)への転出超過の傾向となっています。一方で、市民意識調査からは、18~29歳の未婚者で「結婚して西東京市に住みたい」と考えている割合は26.0%ですが、「子どもができたなら西東京市に住みたい」と考えている割合は30.9%となり、30~39歳の割合では50.7%と半数を超えています。



4 高齢者の生活環境への対応

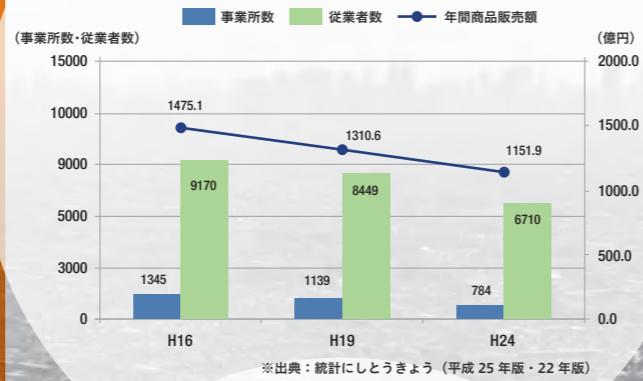
本市の高齢化率は、平成27(2015)年の23%から平成72(2060)年には37%となる予測となっております。市民意識調査結果における「今後の生活にとっての重要度」では、60歳以上の高齢者においては、他の世代に比べ、「地元の商店街」のポイントが高くなっています。また、一方で「買い物の利便性」については、全世代でポイントが高くなっています。市内小売業の事業所数、従業者数、年間商品販売額が減少傾向にあるなかで、買い物の利便性の向上策が求められています。



5 市内産業の活性化

本市の事業所数・従業者数は、北多摩5市では最も多く、区部隣接5市と肩を並べる水準にあるなど、産業の集積地としての一面をあわせ持っています。しかし、商店の廃業等による空き店舗の増加や大規模工場の撤退、縮小が見られます。また、農家数や農地面積も年々減少しており、市内産業を取り巻く状況は厳しくなっています。そのため、地域に根差した産業の振興や起業の促進など、地域の実情に合った地域産業の活性化が求められています。

小売業の事業所数、従業者数、年間商品販売額の推移

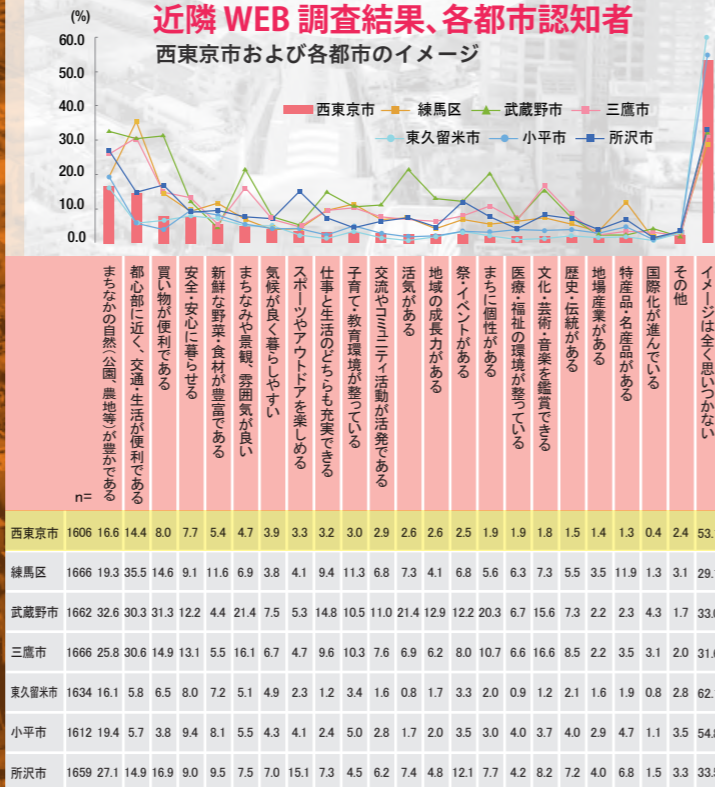


専業別農家数及び農業就業人口

| 年 | 総農家数 | 専業農家 | 兼業農家 | | 農業就業人口 |
|-----|---------|------|------|------|--------|
| | | | 農業が主 | 兼業が主 | |
| H2 | 398 | 32 | 366 | 73 | 293 |
| H7 | 355 | 12 | 343 | 42 | 301 |
| H12 | 324(81) | 66 | 177 | 56 | 121 |
| H17 | 306(78) | 90 | 138 | 28 | 110 |
| H22 | 276(77) | 70 | 129 | 41 | 88 |

注：平成12年調査からは、自給的農家数を区分して調査している。
 ()内は、自給的農家数であり、総農家数に含まれる。資料：農林業センサス報告

近隣 WEB 調査結果、各都市認知者 西東京市および各都市のイメージ



6 まちの魅力と認知度

東京都や埼玉県内東京都近郊都市における西東京市の認知率は96.1%となっていますが、「名前だけでなく、まちの特徴まで知っている」と回答した割合は低く、この傾向は小平市、東久留米市と同様となっています。一方で、本市のイメージは、まちの利便性やみどりにかかわる事項が中心で、「歴史・伝統」、「祭・イベント」については、他区市に比べ低くなっています。また、住民のまちへの愛着度が高い武蔵野市、三鷹市などと比較すると、「まちなみや景観、雰囲気が良い」「まちに個性がある」「文化・芸術・音楽を鑑賞できる」などの項目で差があり、『住み続けたいまち』『住みたいまち』としての価値を高めるためには、「見のがされている」良さを市内・市外に向けて広く伝える必要があります。

7 財政の硬直化への対応

本市の市税収入額は5年連続で増加してきており、平成26(2014)年度には過去最高となったものの、財政力指数では多摩26市中17位(平成27年度財政力指数0.888)に留まっており、経常収支比率が高く、新たな市民ニーズ(行政需要)に対応する余力が少ない状態にあります。その中で、公共施設等の更新や維持管理、業務の改善等が大きな課題となっており、行財政改革をこれまで以上に推進させる必要があります。

特徴と課題から見る 戦略の方向性

本市の特徴と課題から、戦略としての3つの方向性を示します。

① 多世代の活力を活かして、まちを元気にする

若い世代のライフスタイルの変化に対応する

結婚や出産を契機とした若い世代のライフスタイルの変化によって生じる様々な課題に対応し、将来を描けるようにします。

健康維持・増進、健康寿命の延伸に取り組む

多世代にわたる一人ひとりが心身ともに健康でいきいきと暮らすことができるよう、保健医療・社会経済・居住環境などの様々な分野の改善を進めます。

安全・安心、いきいきと活躍できる

安全・安心に暮らせる環境を整えるとともに、高齢期を迎えてもこれまでの知識や経験を活かし、活躍できるまちづくりを進めます。

② 産業の活性化により、まちの活気を高める

まちの活力源としての産業集積を維持しつつ、若者や女性の新たな発想による起業意欲を活かし、地域に根差した産業の育成を進め、まちの活気を高めます。

③ 地理的特性を活かして、まちの魅力高める

アクセスの良さを価値として活かす

「外出しやすい・立ち寄りやすい」といった本市の特徴を「まちの価値」としてPRするとともに、行政サービスへのアクセシビリティなどもあわせて「アクセスの良さ」をまち全体の魅力として活かします。

地域にある資源を最大限活かす

農やみどりのフィールド、学習環境や市民文化といった本市の特徴と、存在している地域の資源を最大限活かして、まちの良さを高めます。

III

戦略のめざすところ

STRATEGY

戦略の基軸

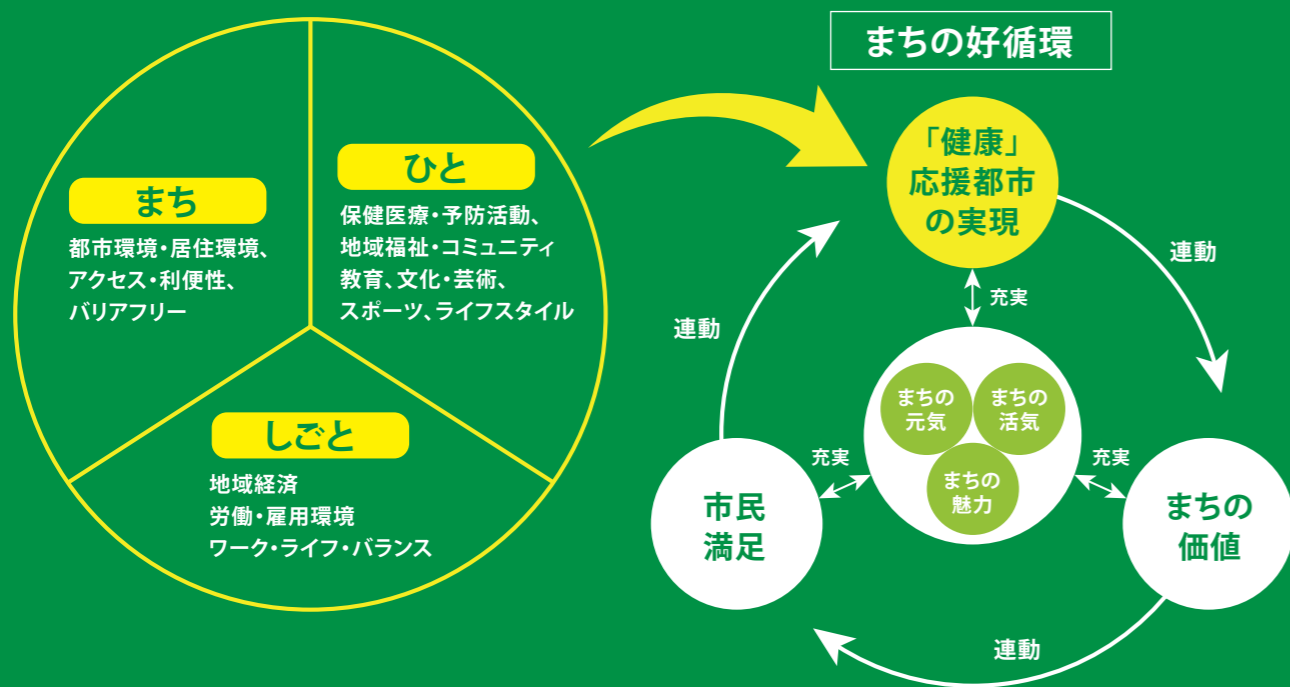
本市は、第2次基本構想で掲げた「やさしさとふれあいの西東京に暮らし、まちを楽しむ」という基本理念の実現に向けて、「みんなの輝きを次世代につなぐまちづくり」を進めています。将来にわたって「住み続けたいまち」、「住みたいまち」として選択され続けるためには、市民一人ひとりのこころやからだの健康はもとより、社会や経済、居住や教育といった生活環境も健康水準を向上させるための要素と捉え、まち全体の「健康」を達成するための、「健康」応援都市※の実現をめざします。

また、「健康」応援都市の実現を進めつつ、まちの特徴を活かし、住み続けたい、住みたいまちとしての「価値」を高めることによって「市民の満足」（市民が自分たちのまちに対して満足すること）も向上するという、好循環を生み出していきます。

※西東京市のめざす「健康」応援都市は、WHOの健康都市連合憲章の考え方を踏まえ、人々が互いに助け合い、生活のあらゆる局面で最高の状態（まちそのものが「健康」であること）を達成するため、その実現に向けて、保健医療・社会経済・居住環境などの様々な分野の改善を進めるとともに、地域・住民が互いに支え合う（応援する）まちです。

「健康」応援都市の実現

『住み続けたいまち』、『住みたいまち』としての価値を高める



推進のための共通の視点

①まち全体（行政・市民）で情報を発信

市内には、国、都、市が指定する寺院や神社、石造物などの文化財、自然や景観、農産物といった多くの魅力が存在しています。行政が発信する情報とともに、地域資源やまちの中で発見したモノやコトなどの情報を、さまざまなツールを活用して市内外に向けて発信し、私たちの住む西東京市の「良さ」を伝えていきます。



②市民との協働や民間企業などとの連携

市内には、市民をはじめとして、ボランティア・市民活動団体、NPOなど、さまざまな団体が活動しています。みんなの力が活力となり、まちが発展していくために、これまで以上に市民との協働の機会を広げます。また、地域資源を活かした市のPRなどにおいては、民間企業などと連携するなど、より効果の高い方法での推進を図ります。



③将来見通しを踏まえた持続可能で自立的な自治体経営の確立

経営の発想に基づいた将来への備えや、選択と集中による適正な行政資源の配分、また、効果的なサービス提供の仕組みづくりや安定的な自主財源の確保など、将来人口や社会経済情勢の変化を的確に捉えながら、経営の視点に立った行財政運営に取り組むとともに、行政組織の連携強化などによる市民ニーズに沿った柔軟で効果的な行政サービスの提供を行います。



⑤新しいアプローチや手法によるまちづくり

今後の事業実施においては、様々な角度や視点からのデータ分析や、これまでと異なる発想での事業実施を図るなど、画一的な考え方や方法に留まることなく、見方やアプローチを変えることで、事業効果（サービスの向上や経費の削減など）を高め、新たな価値の創出を図ります。

④広域連携

人口減少や少子高齢社会の到来に対応するため、市民サービスの維持向上や社会経済活動の利便性確保のため、様々な分野における周辺自治体や姉妹都市・友好都市などの連携強化を進め、効果的かつ効果的な施策の展開を図ります。



基本目標体系

<< 推進のための共通の視点 >>

- 視点1 まち全体（行政・市民）で情報を発信
- 視点2 市民との協働や民間企業などとの連携
- 視点3 将来見通しを踏まえた持続可能で自立的な自治体経営の確立
- 視点4 広域連携
- 視点5 新しいアプローチや手法によるまちづくり

基本目標1 健康・安心・いきいきと暮らせるまちをつくる

多世代の活力を活かして、まちを元気にする

- 1-1 次の世代の結婚・出産・子育ての応援
- 1-2 女性や子育て世代が輝く環境づくり
- 1-3 いつまでも健康で元気に暮らす
- 1-4 安全・安心をみんなでサポート
- 1-5 社会の変化に対応したまちづくり

基本目標2 地域に根ざした産業が育ち、まちの活力を伸ばす

産業の活性化により、まちの活力を高める

- 2-1 「やる気・勇気」魅力ある新産業の育成
- 2-2 「やる気・元気」地域に根ざした産業の振興

基本目標3 まちを楽しみ、まちの良さを高める

地理的特性を活かして、まちの魅力を高める

- 3-1 いいね!と評価できる魅力づくりと情報発信
- 3-2 ほっ!と安らげるみどりのまちづくり
- 3-3 ばっ!とどこにでも行けるまちを満喫する

IV

基本目標

BASIC OBJECTIVE

基本目標1

健康・安心・いきいきと暮らせるまちをつくる

講ずべき施策の基本的な方向性

- すべての子育て家庭が地域で安心して産み育てられる環境づくりを実現するため、結婚・出産・子育て期における支援の充実や、子どもたちが健やかに成長できる環境や居場所づくりを進めます。
- 特別な支援を必要とする子どもや家庭のための支援を進めます。
- 子育て世代の負担軽減や生活における調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための意識啓発などを行います。
- 住み慣れた地域で、いつまでも健康で心身ともに自立した生活を送ることのできる体制づくりを進めます。
- 安心して快適に暮らし、多世代が交流し支え合うまちづくりを進めます。
- 全ての子どもたちが夢と希望をもって成長していける社会を実現するための子どもの貧困対策を進めます。
- 少子高齢化社会の到来に対応した行政サービスの提供方法などの検討を進めます。

数値目標

| 指標名 | 現状値（平成27年度） | 目標値（平成31年度） | 根拠 |
|--------------------------------|-------------|-------------|--------|
| 出産・育児などの子育て支援環境に対する満足度 | 14.5% | 21.6% | 市民意識調査 |
| 地域のつながりやささえ合いなどの地域福祉の推進に対する満足度 | 18.6% | 21.6% | 市民意識調査 |
| 地域生活支援などの障害福祉の充実に対する満足度 | 14.7% | 18.8% | 市民意識調査 |
| 健康づくり支援などの健康事業に対する満足度 | 24.6% | 31.7% | 市民意識調査 |



具体的な施策と事業及び重要業績評価指標

施策 1-1 次の世代の結婚・出産・子育ての応援

施策の方向性

結婚・出産・子育て期における切れ目のない支援や待機児童対策、子育て家庭への情報発信の強化や子どもの居場所づくりなどを充実させ、だれもが安心して産み育てることのできる環境づくりを実現します。また、子育て期における一時的な養育困難状況などに対応するための支援体制づくりを進めます。

各ステージの切れ目をなくす



| 重要業績評価指標 (KPI) | |
|--|--|
| 合計特殊出生率 | |
| 現状値 / 1.25 (平成26年度) | |
| 目標値 / 1.29 (平成31年度) | |
| 事業展開 | |
| <ul style="list-style-type: none"> * 妊娠期からの切れ目のない支援事業の推進 (子育て世代包括支援センター設置に向けた調査・研究含む) * 婚活・出会いイベント等の開催に向けた検討 * 健康情報普及サイトの充実 * 一時保育、ファミリー・サポート・センターの充実 * 病児・病後児保育事業の運営 | |

| 重要業績評価指標 (KPI) | |
|---|--|
| 保育施設の定員数 | |
| 現状値 / 3,316人 | |
| 目標値 / 3,946人 (平成31年度) | |
| 事業展開 | |
| <ul style="list-style-type: none"> * 待機児童解消に向けた取組の推進 * 幼稚園の預かり保育の充実 * 幼稚園の特別支援教育に対する支援 | |

| 重要業績評価指標 (KPI) | |
|---|--|
| 地域における子どもの居場所づくりに対する満足度 | |
| 現状値 / 13.5% | |
| 目標値 / 23.2% (平成31年度) | |
| 事業展開 | |
| <ul style="list-style-type: none"> * 身近にボール遊びのできる場所の検討 * サマー子ども教室事業の実施に向けた検討 * 児童館ランチタイム事業の実施に向けた検討 * 放課後子ども総合プランに基づく居場所の検討 | |

施策 1-2 女性や子育て世代が輝く環境づくり

施策の方向性

子育てに関する学習機会や親子で一緒に参加し、学ぶことのできる機会の提供、男女ともに仕事と家庭を両立しながら、安心して働ける環境づくりを支援します。



| 重要業績評価指標 (KPI) | |
|---|--|
| 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) に関する意識づくり (認知度) | |
| 現状値 / 43.0% (平成24年度) | |
| 目標値 / 52.0% (平成31年度) | |
| 事業展開 | |
| <ul style="list-style-type: none"> * 親子で学べる場づくりの検討 * 子育てに関する学習機会の充実 * ワーク・ライフ・バランスを事業者へ普及する方策の検討 | |

施策 1-3 いつまでも健康で元気に暮らす

施策の方向性

健康づくりへの関心の高まりに応えつつ、市内で暮らす人が住み慣れた地域で生涯を通じて健康で心身ともに自立した生活を送ることができるよう、地域に住む人々が相互につながる仕組みを充実させるとともに、健康寿命の延伸に向けて民間企業や団体、研究機関等と連携した健康づくりのための取組を行います。



| 重要業績評価指標 (KPI) | |
|---|--|
| 健康フォロー講座の取組における参加者数 (年間) | |
| 現状値 / 36人 | |
| 目標値 / 200人 (平成31年度) | |
| 事業展開 | |
| <ul style="list-style-type: none"> * 健康応援団の推進 * 介護支援ボランティアポイント制度の実施 | |

| 重要業績評価指標 (KPI) | |
|---|--|
| 65歳健康寿命 (東京保健所長会方式) の延伸 | |
| 現状値 / 男性 : 81.28歳 女性 : 82.31歳 (平成25年度) | |
| 目標値 / 男性 : 82.00歳 女性 : 83.00歳 (平成31年度) | |
| 事業展開 | |
| <ul style="list-style-type: none"> * 健康寿命の延伸に向けた取組の検討 * 食育や食の改善などを通じた健康づくりの検討 | |

施策

1-4 安全・安心をみんなでサポート

施策の方向性

だれもが安全で安心して暮らすことができるよう、市民相互や地域による見守り機能の強化などに取り組むとともに、地域と市民、関係機関、行政の連携を充実させ、地域課題解決のための体制づくりを進めます。



重要業績評価指標 (KPI)

避難所開設訓練の実施校数

現状値 / 14校

目標値 / 27校 (平成31年度)

事業展開

- * 地域ぐるみの安全体制づくりの推進
- * 学校避難所運営協議会の充実
- * 地域児童対策機能の強化

重要業績評価指標 (KPI)

ほっとネット推進員の登録人数 (累計)

現状値 / 236人 (平成26年度)

目標値 / 400人 (平成31年度)

事業展開

- * ほっとするまちネットワークシステムの推進
- * 市報等の配布を活用した見守りについての調査・研究

施策

1-5 社会の変化に対応したまちづくり

施策の方向性

だれもが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、独居高齢者や困難を抱えた方を含め、共生できる環境づくりのための包括的な地域福祉の支援体制づくりを構築します。また、高齢者や障害者などの生活利便性の維持のための検討や地域間の連携によるコミュニティ機能の充実を図るとともに、人口減少や少子高齢社会の進展、子どもの貧困といった社会の変化に対応したまちづくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)

地域医療福祉拠点モデル事業の実施数 (累計)

現状値 / 0事業

目標値 / 3事業 (平成31年度)

事業展開

- * 地域包括ケアシステムの構築に向けた検討
- * 地域医療福祉拠点モデル事業の検討
- * 地域居宅支援事業の検討
- * 買い物弱者への支援の検討

重要業績評価指標 (KPI)

自治会・町内会等への加入世帯数 (累計)

現状値 / 18,211世帯 (平成28年2月)

目標値 / 19,386世帯 (平成31年度)

事業展開

- * 地域コミュニティ推進事業の充実
- * シニア人材が活躍できるまちの検討
- * 市民協働の充実、市民活動の推進に向けた調査・研究
- * 「子供の貧困対策に関する大綱」に基づく支援の検討
- * 少子高齢化時代における行政サービスのあり方についての調査・研究

基本目標 2

地域に根ざした産業が育ち、まちの活力を伸ばす

講ずべき施策の基本的な方向性

- 都心へのアクセスの良さや産業集積などを活かし、起業・創業を希望する人々を応援します。
- 女性の起業や創業のための働き方サポートに取り組みます。
- 商業や農業の活性化を進め、地域に根ざした産業の振興を図ります。
- 地域資源を活用して、産業の賑わいに繋がる取組を進めます。

数値目標

| 指標名 | 現状値 (平成27年度) | 目標値 (平成31年度) | 根拠 |
|-------------------------|------------------|--------------|----------|
| 創業支援事業計画に基づく創業者数 (累計) | 5件 | 65件 | 所管課資料 |
| 市内における農業産出額 (農家1戸あたり平均) | 3,841千円 (平成24年度) | 4,033千円 | 農林業センサス他 |
| 市内企業等との連携による取組数 (累計) | 1件 | 5件 | 所管課資料 |



具体的な施策と事業及び重要業績評価指標

施策 2-1 「やる気・勇気」魅力ある新産業の育成

施策の方向性

都心へのアクセスの良さや産業集積などを活かして、起業・創業を希望する人への支援を充実させるとともに、女性を対象とした働き方サポートなどの新たな取組を進めます。



| 重要業績評価指標 (KPI) | |
|-----------------------------|--|
| チャレンジショップ事業を利用して起業した件数 (累計) | |
| 現状値 / 4件 | |
| 目標値 / 20件 (平成31年度) | |
| 事業展開 | |
| * 女性の働き方サポート推進事業の実施 | |
| * 創業のための新たな産業拠点についての調査・研究 | |
| * チャレンジショップ事業の実施 | |

施策 2-2 「やる気・元気」地域に根ざした産業の振興

施策の方向性

まちの賑わいの醸成と併せて地域に根差した産業の振興に取り組めます。また、農業の多面的な役割を活かし、援農ボランティアや市民活動団体などとの連携や交流、直売所の魅力の充実といった取組を進めるとともに、地域に存在する資源を活かした商品の開発など、市民、地域、産業が連動することによる新たな価値の向上を生み出します。

| 重要業績評価指標 (KPI) | |
|-----------------------|--|
| 地域資源を活用した商品開発数 (累計) | |
| 現状値 / 0件 | |
| 目標値 / 5件 (平成31年度) | |
| 事業展開 | |
| * 一店逸品事業の推進 | |
| * 地域資源を活用した新たな商品開発の推進 | |

| 重要業績評価指標 (KPI) | |
|------------------------|--|
| 「めぐみちゃん」メニュー認定数 (累計) | |
| 現状値 / 98 (平成26年度) | |
| 目標値 / 300 (平成31年度) | |
| 事業展開 | |
| * 直売所の魅力充実の検討 | |
| * 市民農園の新しい展開、農業体験農園の推進 | |
| * 「めぐみちゃん」メニューの推進 | |

Ⅳ 基本目標 BASIC OBJECTIVE

基本目標 3

まちを楽しみ、まちの良さを高める

講ずべき施策の基本的な方向性

- 多彩な地域の特性を活かして、市民と一緒にまちの魅力を市内外に発信します。
- 市民がまちの良さを実感できるための取組を進めます。
- 次世代を担う若者が主体者となって未来を描けるまちづくりに取り組みます。
- 身近なみどりを大切にして、「みどり」環境の充実を図ります。
- 外出しやすいといった魅力を活かして、まちを散歩しながら健康レベルを向上させるための取組を進めます。
- 自転車などでの移動がしやすい環境づくりを進めます。

数値目標

| 指標名 | 現状値 (平成27年度) | 目標値 (平成31年度) | 根拠 |
|--|--------------|--------------|---------|
| 東京都及び埼玉県の近郊都市における本市の認知率 (名前だけでなく特徴まで知っている人の割合) | 31.7% | 40.6% | アンケート調査 |
| 住み心地について満足している市民の割合 | 59.9% | 67.4% | 市民意識調査 |



具体的な施策と事業及び重要業績評価指標

施策 3-1 いいね!と評価できる魅力づくりと情報発信

施策の方向性

地域資源を発掘・再評価し、多世代に向けた戦略的なプロモーションを行なうとともに、情報発信機能の強化を図ります。また、まちの魅力の向上を通じて市民満足度の向上や郷土愛の醸成を進め、このまちに暮らすことが誇りとなって、その誇りが次世代にも続くまちづくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)

市内5駅の1日当たりの乗降客数

現状値 / 239,982人 (平成26年度)

目標値 / 243,000人 (平成31年度)

事業展開

- *いいね!を活用したシティプロモーション事業の推進
- *まち歩き観光の推進
- *市民文化祭の充実
- *下野谷遺跡を活用した魅力づくり
- *共同スポーツイベントの開催
- *駅前情報発信拠点づくりの検討
- *西東京PR親善大使事業の検討



重要業績評価指標 (KPI)

西東京市に愛着を感じている市民の割合

現状値 / 68.7%

目標値 / 71.7% (平成31年度)

事業展開

- *市民記者クラブ事業の検討
- *市政モニタリング制度の実施
- *名誉市民制度導入に向けた検討
- *中学生向け夢・未来講演会の開催に向けた検討
- *まちづくり若者サミットの開催に向けた検討



施策 3-2 ほっ!と安らげるみどりのまちづくり

施策の方向性

まちの魅力として評価されている「みどり」を大切に、今後も身近に感じられる環境づくりを進めるとともに、「みどり」を活用した取組を充実させます。

重要業績評価指標 (KPI)

身近なみどりの保全・
活用に協力する人の数(年間)
※「公園ボランティア」登録会員数

現状値 / 873人 (平成26年度)

目標値 / 900人 (平成31年度)

事業展開

- *みどりの散策路めぐりの充実
- *多様な市民ニーズを考慮した公園機能の充実の検討
- *コミュニティガーデン・オープンガーデン事業の推進
- *みどりに包まれた環境づくりの普及促進



施策 3-3 ぱっ!とどこにでも行けるまちを満喫する

施策の方向性

「コンパクトなまち」としての特徴を活かし、市民一人ひとりが気軽にまち歩きや移動ができる環境づくりを進めるとともに、まちの価値につなげるための取組を行います。

重要業績評価指標 (KPI)

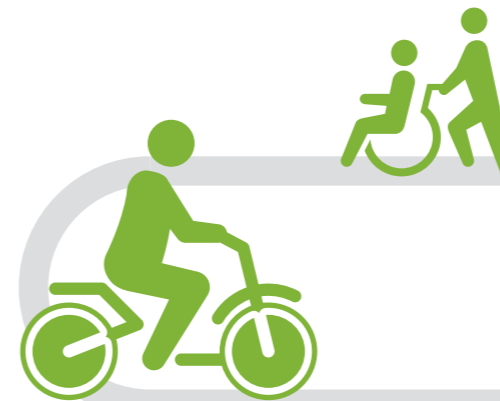
「まち歩き」事業に参加した人数(年間)
※「まち歩き観光」や「みどりの散策路めぐり」
などへの参加者数

現状値 / 135人 (平成26年度)

目標値 / 3,500人 (平成31年度)

事業展開

- *高齢者などの外出の応援のための検討
- *体力づくりや健康の向上のためのまち歩きの推進
- *自転車を活用したまちづくりに向けた調査・研究





評価の考え方

EVALUATION

西東京市総合戦略を着実に実施していくために、基本目標ごとに設定する数値目標と施策ごとに設定する重要業績評価指標 (KPI) ※に対して、施策の実施状況及び達成状況を検証します。検証にあたっては、外部有識者を含めた検証機関等による見直し及び改善の仕組み (PDCAサイクル) を確立します。

※重要業績評価指標 (KPI) :
Key Performance Indicatorの略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

